



NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>

東海地方に遅れること3週間、6月26日、九州北部と四国、中国、近畿の「梅雨入り」が平年より大幅に遅れてようやく発表されました。今年統計がある1951年以降で最も遅い記録とのことです。

梅雨の季節の花と言えば多くの方が「紫陽花」と答えることでしょう。最近では5月早々には花屋の店頭で色とりどりの鉢植えのアジサイが並び始め、「母の日」の贈り物としての需要があるとのこと。

私たちがよく見かける鉢植えや公園の紫陽花は「セイヨウアジサイ」と呼ばれているものが多く、日本固有の「ガクアジサイ」を原種とした日本の園芸品種「ホンアジサイ」がヨーロッパで改良されて日本に逆輸入されて広まったものです。

それにしても「アジサイ」の新品種の色、形、佇まいなど、そのバリエーションの多さには毎年毎年驚かされ、栽培をしてみたいと思わずには入れられません。

写真のアジサイは、お食事処「たなか」へ行った際、入り口に生けてあった「アジサイ」の「江戸小紋」を思わせる小さな花の集まりに魅せられ、枝をもらってきて挿し木をしたものです。

あれから3年、大きな株に育ち、雨の日などは雨粒を小さな花いっぱいを受け止め、その重さに耐えかねて地面につかばかりの花房を付けてくれました。

アジサイの季節が終われば夏はもうすぐ。今年も40℃を超える暑さが予想されます。今から体調管理を万全にして夏を乗り切る体力を養っておきましょう。



聞くとところによるとお食事処「たなか」は6月いっぱいまで店じまいとのこと。この「アジサイ」も新社屋の建設にともない、最後の開花となるかもしれないことを察し、精一杯の花をつけたのかも知れません。

【ISO14001掲示板】 レジ袋無償配布を禁止



「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」 の策定について

2019年5月31日環境省発表

原田義昭環境相(環境省)は6月3日午後、プラスチック製レジ袋の無償配布を禁止する法令を速やかに制定すると発表した。これにより、レジ袋を使う際は、有料化が義務づけられるが、その方法や価格などについては、各事業者が決めるとしている。また、有料化によって得られた売り上げは、環境対策に使われることが望ましいとしている。原田環境相「企業は負担しない。消費者が欲しいならあげる」、「オリンピックが来年(2020年)の夏秋ですから、それには遅れないように、ことし(2019年)から来年くらいまでに」と発言。レジ袋を使用する場合は有料とし、その売り上げを、仕入れ原価を除き、環境対策などに充てる考え。原田環境相「今回の有料化を通じて、1人ひとりに考えていただく」、「プラスチック問題について、身をもって検討、考え直してもらうことも大事」と話した。

海洋プラスチックごみ問題については、地球規模での環境汚染が国際的にも懸念されています。本年6月のG20に向けて、議長国として我が国の率先的な姿勢を示し、G20における議論をリードするため、我が国としての具体的な取組について、本日開催された海洋プラスチックごみ対策の推進に関する関係閣僚会議において、「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」として策定しました。

1. 経緯
環境大臣を議長として平成31年2月26日に開催した、海洋プラスチックごみ対策の推進に関する関係府省会議において検討し、5月31日開催された海洋プラスチックごみ対策の推進に関する関係閣僚会議において策定しました。

2. 海洋プラスチックごみ対策アクションプランの概要
海洋プラスチックごみ対策も成長の誘因であり、経済活動の制約ではなくイノベーションが求められているという考えの下、プラスチックを有効利用することを前提としつつ、新たな汚染を生み出さない世界の実現を目指し、以下のような取組を徹底していきます。

レジ袋の「全国一律有料化」が「納得しにくい理由」

「規制すべき理由」が多いうえにややこしい

「海洋生物の保全」「ごみ削減」「石油資源の消費抑制」「地球温暖化防止」……など数が多いうえに、反論を唱える人々もいる。

有料化で「メリットがなくなる協力者」がいる

有料化は「使うとマイナス」だが、特典付与のように「断るとプラス」になる取り組みが行われているケースも。

レジ袋規制はすでに全国的に行われている

すでに47都道府県で実施。ただ、事業者の足並みが揃わないことなどから政府による規制強化を求める声がある。

実施目的、根拠の分らない

「レジ袋削減による効果を明確に示すデータを出して」「レジ袋以外の普及啓発もした方が良いのでは？」と環境省に主張する自治体も。

- まず、廃棄物処理制度によるプラスチックごみの回収・適正処理をこれまで以上に徹底するとともに、ポイ捨て・不法投棄及び非意図的な海洋流出の防止を進める。
- それでもなお環境中に排出されたごみについては、まず陸域での回収に取り組む。さらに、一旦海洋に流出したプラスチックごみについても回収に取り組む。
- また、海洋流出しても影響の少ない素材（海洋生分解性プラスチック、紙等）の開発やこうした素材への転換など、イノベーションを促進していく。
- さらに、我が国の廃棄物の適正処理等に関する知見・経験・技術等を活かし、途上国等における海洋プラスチックごみの効果的な流出防止に貢献していく。
- 世界的に海洋プラスチック対策を進めていくための基盤となるものとして、海洋プラスチックごみの実態把握や科学的知見の充実にも取り組む。

今まで、幾度となく議論されてきた「レジ袋の有料化」。レジ袋は家庭の「生ゴミ」を捨てる時に使われており、その後は各自治体が適切に処理している。一部の小売店では既に有料化が行われており、法律による「レジ袋の有料化」に「プラゴミ」削減の大きな効果を期待するのは今更感がぬぐえない。また、「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」は、「海洋生分解性プラスチック」の開発を除けば国、自治体、事業者、一般市民がプラスチック製品の使用、廃棄を定められた方法で適正に処理してゆけば日本国内で解決できることばかり。具体策にける環境大臣の法制定発言も環境省のアクションプラン策定も、オリンピック、G20など国際社会向けのアピールに終わらないことを願う。日本国内で生産した製品はプラスチックに限らず、国内で処理する。を徹底することが環境に配慮した日本をアピールする最大の方策となるのでは。